

ささえ愛

北宇和高等学校
人権委員会
2024 11月号

11月21日(木)は県立学校人権・同和教育訪問があり、ホームルーム活動では多数の方に参観していただきました。1年生は様々な人権課題Ⅱ、2年生は人権獲得の歴史Ⅲとして水平社運動から学び、3年生は結婚差別の解消に向けて、自分たちの取るべき姿勢を確認しました。人権委員の感想の一部を紹介します。



1-1

活動ではみんなが「ハッピーエンド」になる返信を考えるのが難しかった。SNSの使い方の方に気を付けて、友達とトラブルにならないようにしたい。



1-2

災害に対し、避難所には様々な困難を抱えた人が来るので、それぞれに平等に対応することが大切だと思った。日頃からの生活を考えたい。



1-3

ヴァリさんのことを支えていた周りの人のように優しい人になりたい。また、身近にあるユニバーサルデザインに気付けるようになりたい。



2-1

松浪さんのいじめに対して怒られたのではなく、部落差別をされたことがつらかったという事が印象に残った。人権に関心のある人になりたい。



2-2

正吉さんのように「地域の人のために働く」というのはすごく難しいことだけど、学んだことを生かし、自分が誰かを差別しないようにしたい。



2-3

おかしいと思ったことに対し、行動に移せるようになりたい。また、人と平等に接することができる人になりたいと思った。



3-1

差別に対する考え方を学んだ。自分が直接受けていない差別に対して、差別するのはおかしいという事を伝えたい。



3-2

今回の授業を受けて差別について改めて無くしていかないといけないと思った。日頃から差別について関心を持ちたい。



3-3

親が自分の結婚を反対しても自分の意見を貫き通したいし、自分の子どもが結婚したいと話してきたらしっかり向き合っていきたい。

10月号の感想を紹介します。



10月号は「ありがとう」の記事から
考えることができました。



家族や友達存在など、自分の身の周りにあるものを当たり前と思わず、
一つ一つのこと感謝して過ごそうと思いました。

高校に入ってからお弁当を作ってもらうようになり、帰宅後に「おいしかったよ、
ありがとう」というようにしています。続けていきます。

私たちは色々な人に支えられ当たり前の日常を過ごすことができているので、感謝の気持ちを
忘れないで生活したいと思いました。

いつもの生活でも感謝する人や事柄はたくさんあると気付いたので、身近な人からありがとうを伝えていきたい。

普段生活できていることを「当たり前」と考えて、ありがとうは口先でしか言っていませんでした。
しかし、この文章を読み「生かされている」と考えると、今までの自分の態度を見直し、心
から感謝しようと思いました。

自分も色々な人に感謝して、毎日「ありがとう」を言いたいなと思いました。

マイナスなことばかりを言わずに、プラス
のことを言った方がいいと思いました。

身近にあるものをつい「当たり前」と思ってしまうがちですが、これからは別視点から物事を見
て、感謝の気持ちを持ちたいと思いました。

ありがとうと言われたら嬉しくなるので、これからもありがとうは日常でも使っていきたいし、ありがとう
であふれる世界になってほしい。

2学期人権委員会活動



文化祭で皆さんからの温かい言葉を展示
しました



人権集会で「交流会報告」などの発表を
しました